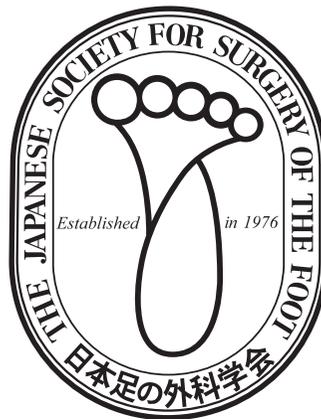


日本足の外科学会雑誌

The Journal of the Japanese Society
for Surgery of the Foot



第38回日本足の外科学会・学術集会
抄録号

Vol.34 No.2 October 2013

日本足の外科学会

会場へのアクセス



会場へのアクセス



■市営バス

- 乗車 仙台駅西口バスプール9番乗り場より
710「宮教大・青葉台」
713「宮教大・成田山」
715「宮教大」
719「動物公園循環 (青葉通・工学部経由)」
720「交通公園・川内営業所」
のいずれかにお乗りください。

- 下車 「博物館国際センター前」

- 料金 片道180円

- 所要時間 約10分

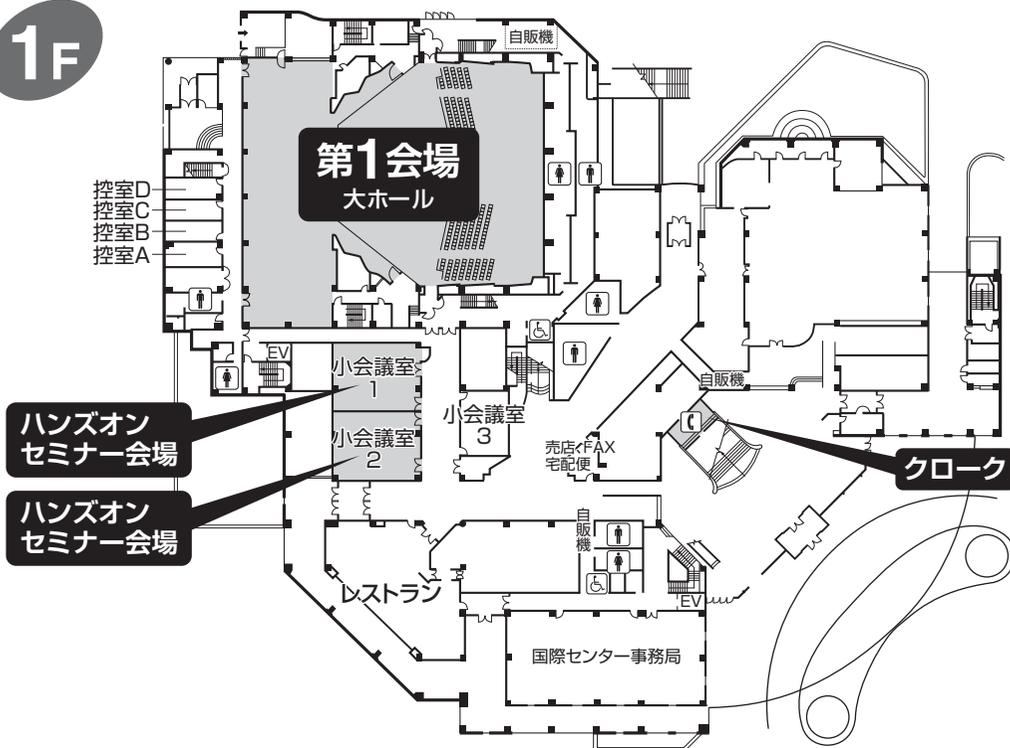
※道路の混雑状況により多少変わります。

- 発車間隔 約10分

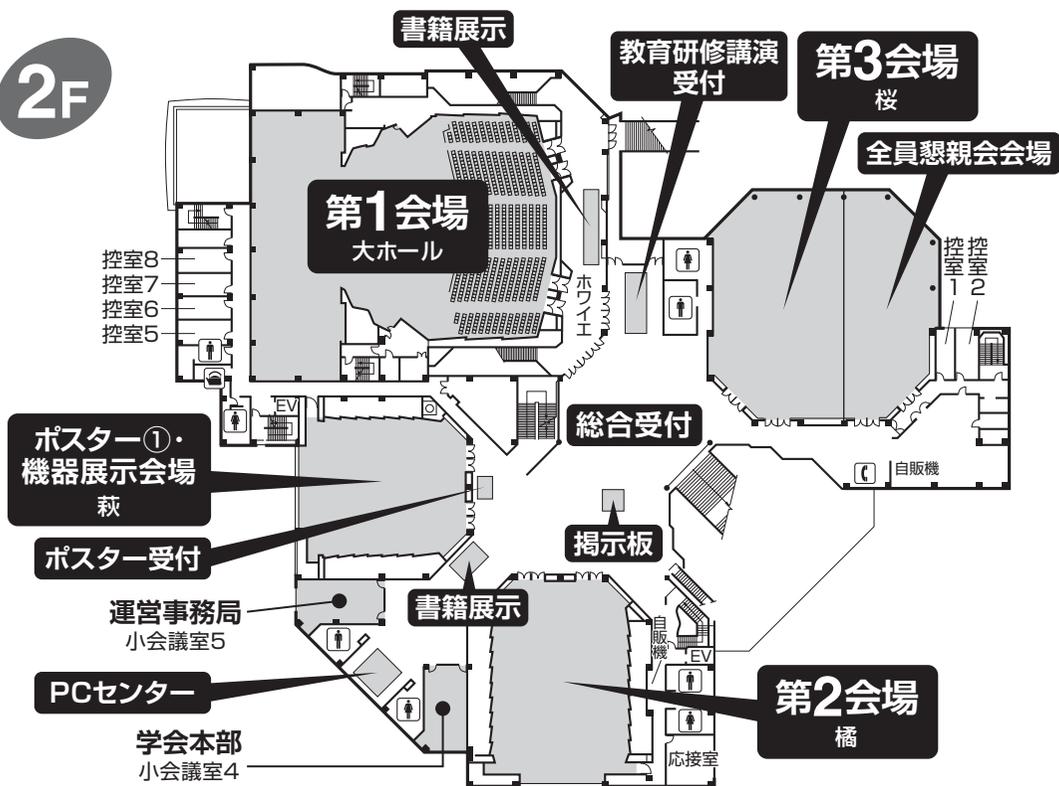
※平日9時～18時台の本数になります。

会場案内図

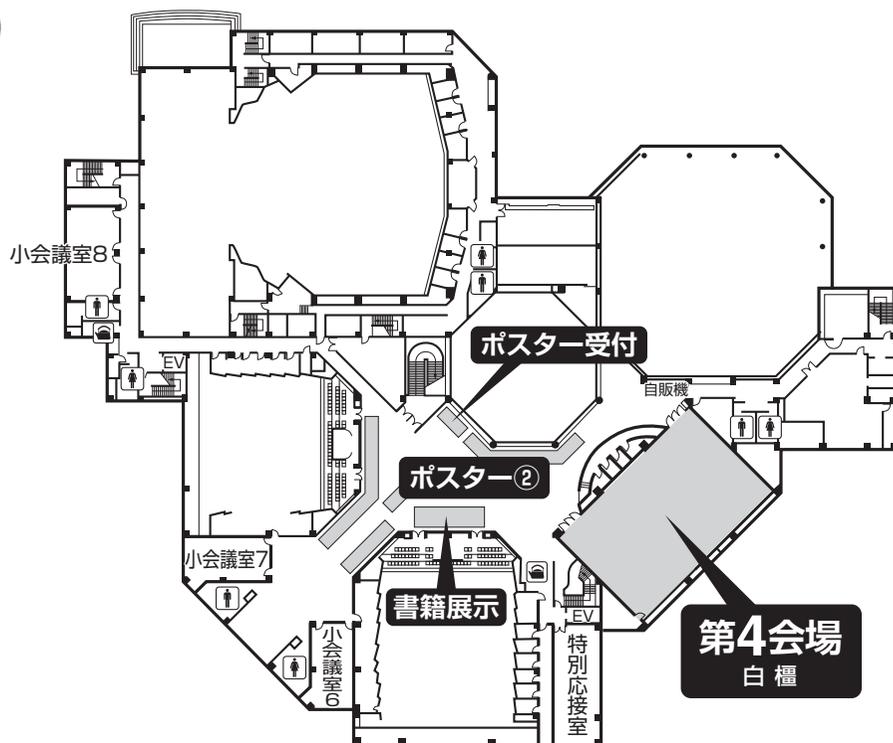
1F



2F



3F



講 師：東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 整形外科 准教授 窪田 誠 先生
募 集 人 数：20名
参 加 費：2,000円
単位申請費：1,000円 日本整形外科教育研修単位
[6] リウマチ性疾患、感染症、[12] 膝・足関節・足疾患、リウマチ単位
共 催：メイラ株式会社
申 込 方 法：ご所属の病院名、お名前をハンズオンセミナー担当者
(Eメール y_okayama@meira.co.jp)宛にご連絡いただくか、メイラ営業担当
者にお申し込みください。
問い合わせ先：メイラ株式会社 メディカル事業部 岡山佳孝、勝村明純
TEL (052)459-1277 FAX (052)459-1282

ハンズオンセミナー4

日 時：2013年10月31日(木) 10:15～11:55
会 場：仙台国際センター 1階 小会議室2
テ ー マ：VariAx ロッキングプレートを用いた中・前足部の再建手術
講 師：東京警察病院 整形外科 副部長 原口 直樹 先生
座 長：札幌クラーク病院 院長 門司 順一 先生
募 集 人 数：30名
参 加 費：2,000円
単位申請費：1,000円 日本整形外科教育研修単位
[6] リウマチ性疾患、感染症、[12] 膝・足関節・足疾患、リウマチ単位
共 催：日本ストライカー株式会社
申 込 方 法：下記メールアドレスまで①ご氏名②ご氏名のふりがな③ご所属の病院名を明記
のうえお申し込みください。
e-mail：NSKTrauma@stryker.com
問い合わせ先：e-mail：NSKTrauma@stryker.com

ハンズオンセミナー5

日 時：2013年10月31日(木) 14:40～16:20
会 場：仙台国際センター 1階 小会議室1
テ ー マ：MODE Distal Tibia Plate とオスフェリオンを用いた低位脛骨骨切り術
講 師：東京警察病院 整形外科 副部長 原口 直樹 先生
募 集 人 数：25名
参 加 費：2,000円
単位申請費：1,000円 日本整形外科教育研修単位
[2] 外傷性疾患(スポーツ障害を含む)、[12] 膝・足関節・足疾患
共 催：株式会社日本エム・ディ・エム

申込方法：下記 URL (リンク) より、お申込みください。
お申込み後、受付メールのご案内に沿って参加費をお振込みください。
URL：<http://www.jmdm.co.jp/seminar>

問い合わせ先：株式会社日本エム・ディ・エム マーケティング部 トラウマ製品課
担当者：鈴木哲也 TEL：03(3341)6553
Eメール：m-seminar@jmdm.co.jp

ハンズオンセミナー6

日 時：2013年10月31日(木) 16:25～18:05
会 場：仙台国際センター 1階 小会議室2
テ - マ：JuggerKnot を用いた足関節近傍におけるアンカリングテクニック
講 師：JA 愛知厚生連海南病院 外傷整形外科部長 兼 四肢外傷センター長
高田 直也 先生

募集人数：30名

参加費：2,000円

単位申請費：1,000円 日本整形外科教育研修単位
[2] 外傷性疾患(スポーツ障害を含む)、
[12] 膝・足関節・足疾患、スポーツ単位

共 催：バイオメット・ジャパン株式会社

申込方法：下記 URL よりお申込みください。
https://www.biomet.co.jp/seminar/entry05_form.html

問い合わせ先：バイオメット・ジャパン株式会社 マーケティングコミュニケーション部
jp.es-contact@biomet.com

ハンズオンセミナー7

日 時：2013年11月1日(金) 8:30～10:10
会 場：仙台国際センター 1階 小会議室1
テ - マ 1：外反母趾近位骨切り
—Mann・Rotated Insertion Metatarsal Osteotomy (RIMO)・外側解離術—

講 師：奈良県立奈良病院 整形外科 部長 佐本 憲宏 先生

テ - マ 2：足部疾患に対する DARCO locking plate の使用経験

講 師：神戸大学 整形外科 神崎 至幸 先生

募集人数：20名

参加費：2,000円

単位申請費：1,000円 日本整形外科教育研修単位
[2] 外傷性疾患(スポーツ障害を含む)、[12] 膝・足関節・足疾患

共 催：ライト・メディカル・ジャパン株式会社

申込方法：問い合わせ先へご連絡をお願いいたします。

問い合わせ先：担当 牧田陽子
Tel：03-6230-1451 E-Mail：makita@wmj.co.jp

ハンズオンセミナー8

日 時：2013年11月1日(金) 10:15～11:55
会 場：仙台国際センター 1階 小会議室2
テ - マ：ロッキング X プレートを用いた前足部手術 一手技、コツおよび有用性—
講 師：大阪医科大学 整形外科学 講師 安田 稔人 先生
募 集 人 数：20名
参 加 費：2,000円
単位申請費：1,000円 日本整形外科教育研修単位
[6] リウマチ性疾患、感染症、[12] 膝・足関節・足疾患、リウマチ単位
共 催：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 デピューションセス・ジャパン
申 込 方 法：詳細はジョンソン・エンド・ジョンソン担当営業へお尋ねください。
問い合わせ先：Mabashi.Toshifusa@synthes.com
担当者 間橋 敏房(まばしとしふさ)

ハンズオンセミナー9

日 時：2013年11月1日(金) 13:40～15:20
会 場：仙台国際センター 1階 小会議室1
テ - マ：重度足部骨折と麻痺性足部変形へのリング型創外固定術の応用
～ TrueLok を用いた Pilon 骨折と内反尖凹足変形矯正～
講 師：獨協医科大学越谷病院 整形外科 主任教授 大関 覚 先生
募 集 人 数：30名
参 加 費：2,000円
単位申請費：1,000円 日本整形外科教育研修単位
[2] 外傷性疾患(スポーツ障害を含む)、
[3] 小児整形外科疾患(先天異常、骨系統疾患を含む、ただし外傷を除く)、
運動器リハビリテーション単位
共 催：日本メディカルネクスト株式会社
申 込 方 法：下記 URL よりお申込みください。
https://f.msgs.jp/webapp/form/13525_fau_12/index.do
問い合わせ先：日本メディカルネクスト(株) オーツペディック事業部 マーケティング
田村憲治郎 k.tamura@j-mednext.co.jp

8. 論文は十分に推稿を重ねて提出すること（日整会誌編集委員による医学論文執筆要綱を参照のこと）。とくに英文論文は内容を理解できる者による校閲を済ませたものであることを要す。
9. 原稿（図、表を含む）はコピー2部を添えて提出する。但し、図のうち X 線写真、顕微鏡写真などは原図と同じものを付すこと。さらに、表題、要旨、本文、文献、図の説明文、表一式を納めた電子媒体（CD, USB メモリなど）同封する。
10. 図、表の使用はその出典が明示されなければならない。
11. 論文の採否は日本足の外科学会編集委員会が審査し決定する。その際、訂正あるいは書き直しを求める場合がある。また、同委員会において字句の訂正、組版の修正などを行うことがある。
12. 初校は著者が行う。この際印刷上の誤り以外、文章の書き替えは原則として認めない。
13. 掲載料は刷り上り4頁までは無料、これを越えるものはその実費を著者負担とする。
14. 別刷は30部までは無料、これを越える場合は50部単位で受け付け、著者の実費負担とする。
15. 原稿は下記宛に送付のこと。日本足の外科学会年次学術集会終了3ヶ月後以降到着分は次号掲載とする。

原稿送り先：〒102-8481

東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル

株式会社コングレ内

日本足の外科学会事務局

TEL：03-5216-5797 FAX：03-5216-5552

昭和55年6月1日 投稿規定決定
平成元年7月1日 一部改正
平成4年7月3日 一部改正
平成7年6月23日 一部改正
平成20年6月19日 一部改正
平成22年6月16日 一部改正

会員各位 殿

論文の体裁を整えていただくため、原稿をまとめられる際に下記のチェック表の項目を確かめて、原稿と共に投稿下さいますようお願い申し上げます。

日本足の外科学会 編集委員会

投稿論文チェック表 (平成23年改訂)

平成 年 月 日

投稿者氏名：

所 属：

論 文 題 名：

いずれかを○で囲んで下さい。(総説、原著、症例報告、その他)

- () にチェックを入れ、論文の一番上につけてご投稿下さい。
- () 論文はオリジナル1部、コピー2部(図は原図のこと)
- () 和文抄録原稿(400字以内)、英文抄録原稿(200words)
- () 英文の表題はありますか。
- () Key words (英・和)は入れましたか。
- () 連絡先の住所・所属・氏名・電話番号、メールアドレスは正しく明記してありますか。
- () 英文の氏名(姓・名の順で)はありますか。
- () 文献の記載方法に誤りはありますか。
- () 文献はアルファベット順になっていますか。
- () 図・表の説明および挿入箇所は本文中に指示がありますか。
- () 別刷は希望しますか。(する・しない)
- () 同意書に署名押印はありますか。
- () 英文 Abstract はネイティブのチェックを受けましたか。

論文指導者署名欄

著者署名欄

日本足の外科学会投稿論文の著作権に関する同意書

「
と題する本論文が日本足の外科学会雑誌に掲載された場合には、本論文のすべての著作権は日本足の外科学会に帰属することに同意します。また論文は未発表であり、他紙に発表予定のないものであることを証明します。

平成 年 月 日

所 属

名 前

印

日 程 表

プログラム

第38回日本足の外科学会・学術集会 日程表

前日 2013年 10月30日 水

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
1F 小会議室1						
1F 小会議室2						
2F 萩						

1日目 2013年 10月31日 木

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	
第1会場	開 会 式 8:10~9:10 教育研修講演 外傷性関節症の発症 メカニズムと予防戦略 栃木 祐樹 座長：門司 順一	9:15~10:45 シンポジウム1 Ponseti 法による先天性内反足治療 後の変形遺残・再発の原因と対策 座長：北 純 若林 健二郎		10:50~11:50 招待講演1 Cartilage reconstruction in the foot and ankle Hajo Thermann 座長：高尾 昌人			
2F 大ホール							
第2会場	8:10~8:55 一般 外反母趾 基礎と評価Ⅰ 座長：佐本 憲宏	8:55~9:25 一般 外反母趾基 礎と評価Ⅱ 座長：星野 達	9:25~9:50 主題 外反母趾 保存療法 座長：内田 俊彦	9:50~10:20 一般 重度外反 母趾 座長：安田 稔人	10:25~10:55 主題 創外固定 座長：中瀬 尚長	10:55~11:25 主題 麻痺性 足部変形 座長：町田 治郎	11:55~12:55 ランチョンセミナー1 SAFE-Q、日本発の世界標準へ 一何のために、どう使うかー 仁木 久照 座長：須田 康文 共催：久光製薬
2F 橘							
第3会場	8:50~ 9:10 一般 OAメカ ニズム 座長：渡邊誠治	9:10~9:50 一般 OA骨切りⅠ 座長：渡邊 孝治	9:50~10:35 一般 OA骨切りⅡ 座長：田代 宏一郎	10:40~11:35 一般 OA固定術 座長：平石 英一 倉 秀治		11:55~12:55 ランチョンセミナー2 下肢痙縮に対する ポツリヌス療法の実際 大田 哲生 座長：君塚 葵 共催：グラクソ・スミスクライン	
2F 桜							
第4会場	8:35~9:10 一般 RA足Ⅰ 座長：矢部裕一郎	9:15~10:15 モーニングセミナー1 リウマチ足に対する 最近の知見 桃原 茂樹 座長：井樋 栄二 共催：ファイザー	10:20~11:00 一般 RA足Ⅱ 座長：伊藤 宣	11:00~11:40 一般 RA足Ⅲ 座長：桃原 茂樹		11:55~12:55 ランチョンセミナー3 アスリートのスポーツ傷害 に対するLIPUSの効果 松下 隆 座長：杉本 和也 共催：帝人	
3F 白檀							
ポスター① ・器械展示	8:30~10:30 ポスター貼付		10:30~14:40 ポスター閲覧				
2F 萩							
ポスター② 3F フロア	8:30~10:30 ポスター貼付		10:30~18:00 ポスター閲覧				
1F 小会議室1	8:30 ~10:10	ハンズオンセミナー 3 講師：窪田 誠 座長：野口 英雄 共催：メイラ					
1F 小会議室2			10:15 ~11:55	ハンズオンセミナー 4 講師：原口 直樹 座長：門司 順一 共催：日本ストライカー			
仙台市博物館							

13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
		15:00 ~16:40	ハンズオンセミナー 1 講師：館 正弘 共催：ケーシーアイ			
				16:50 ~18:30	ハンズオンセミナー 2 講師：高橋 周 共催：日本シグマックス	
				16:00~19:00 参加受付、教育研修講演受付、 PC 受付、ポスター貼付		

13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00					
13:00~ 13:30 総会	13:30~14:30 基調講演 日本足の外科学会 の現状と課題 木下 光雄 座長：羽鳥 正仁	14:40~16:10 ビデオパネルディスカッション 外反母趾手術の実際 そこが知りたい手術のコツ 座長：宇佐見 則夫 野口 昌彦	16:20~17:50 パネルディスカッション 1 麻痺性足部変形に対する 骨性手術の現在 座長：落合 達宏 大内 一夫								
		14:35~15:15 主題 鏡視下手術 座長：野口 英雄	15:15~15:40 一般 人工 足関節 座長：藤井唯誌	15:40~16:20 主題 アキレス腱 保存療法 座長：古府 照男	16:30~18:00 Korean-Japanese Combined Symposium Difficult Sports Injuries of the Foot and Ankle 座長：橋本 健史 Kyung Tai Lee						
						19:00~ 全員懇親会					
		14:35~15:20 一般 アキレス腱 断裂・障害 座長：印南 健	15:20~15:45 一般 リスフラン 座長：白仁田厚	15:50~16:50 社都セミナー 1 高尾 昌人 寺本 司 座長：寺本 司 高尾 昌人	17:00~18:00 社都セミナー 2 矢部 裕一朗 野口 昌彦 座長：野口 昌彦 矢部 裕一朗						
		14:40~14:56 ポスター 感染・関 節炎 I 座長：谷口泰徳	14:56~15:12 ポスター 感染・関 節炎 II 座長：田中博史	15:12~15:29 ポスター 腫瘍 I 座長：金澤和貴	15:29~15:46 ポスター 腫瘍 II 座長：岡田恭司	15:46~16:02 ポスター 腫瘍 III 座長：中島 久弥	16:02~16:19 ポスター 腫瘍 IV 座長：土肥 修	16:19~16:35 ポスター RA 座長：嶋 洋明	16:35~16:51 ポスター 創傷 治癒 座長：秋山晃一	16:51~17:08 ポスター 距骨骨折・ 脱臼 座長：西山 隆之	
		14:40~17:57 ポスター発表 2列目	14:40~15:07 ポスター 骨折・ 脱臼 I 座長：熱田智範	15:07~15:29 ポスター 骨折・ 脱臼 II 座長：田中健太郎	15:29~15:57 ポスター 骨折・ 脱臼 III 座長：片岡公一	15:57~16:19 ポスター スポーツ外 傷・障害 I 座長：加藤篤史	16:19~16:41 ポスター スポーツ外 傷・障害 II 座長：萩内隆司	16:41~17:08 ポスター 成人 扁平足 座長：倉茂聡徳	17:08~17:24 ポスター 創外 固定 座長：柏倉 剛	17:24~17:30 ポスター 腱損傷 座長：池澤 裕子	
	14:40 ~16:20	ハンズオンセミナー 5 講師：原口 直樹 共催：日本エム・ディ・エム									
				16:25 ~18:05	ハンズオンセミナー 6 講師：高田 直也 共催：バイオメット・ジャパン						
					17:00~19:00 仙台市博物館 見学						

第38回日本足の外科学会・学術集会 日程表

2日目 2013年 11月 1日 金

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00							
第1会場 2F 大ホール	9:00~10:30 シンポジウム2 足部疾患-臨床・画像・病理の トライアングル 座長:仁木 久照 熊井 司		10:40~12:10 特別企画シンポジウム 私の足の外科への取り組みと今後の展望 佐藤 雅人、井口 傑 山本 晴康、高倉 義典 座長:田中 康仁、長谷川 惇									
第2会場 2F 橋	8:30~9:15 一般 外反母趾ロッキング・プレート 座長:嶋 洋明	9:15~9:45 一般 外反母趾Mann法 座長:奥田 龍三	9:45~10:15 一般 外反母趾遠位骨切り 座長:山本 謙吾	10:15~10:45 一般 外反母趾DLMO法 座長:須田 康文	10:50~11:20 一般 前足部障害・骨端症 座長:町田 英一	11:20~11:50 一般 糖尿病・シヤルコー 座長:常德 剛	11:50~12:15 一般 内反・麻痺性足 座長:薩摩真一					
第3会場 2F 桜			10:00~10:30 一般 成人扁平足 座長:生駒 和也	10:40~11:10 シンポ関連 画像 座長:原口 直樹	11:10~11:40 一般 画像1 座長:窪田 誠	11:40~12:05 一般 画像2 座長:吉村 一郎						
第4会場 3F 白檀	8:00~9:00 モーニングセミナー2 人工関節置換術による関節リウマチ足関節の治療成績向上を目指して 橋本 淳 座長:大関 覚 共催:ナカシマメディカル	9:05~9:40 主題 脛骨遠位部骨折 座長:佐藤 徹	9:40~10:05 一般 脛骨遠位部骨折 座長:藤井裕之	10:05~10:35 一般 骨折(足根骨・その他) 座長:伊勢福 修司	10:40~11:15 一般 果部骨折1 座長:岡田 正人	11:15~11:50 一般 果部骨折2 座長:大塚 和孝	11:50~12:20 一般 足底腱膜炎 座長:井上 敏生					
ポスター①・器械展示 2F 萩	8:00~17:00 ポスター閲覧											
ポスター② 3F フロア	8:00~ ポスター アキレス腱断裂・障害I 座長:福田 陽	8:22~ ポスター アキレス腱断裂・障害II 座長:鈴木啓之	8:44~ ポスター アキレス腱断裂・障害III 座長:田口 哲也	9:11~ ポスター インピンジメント症候群 座長:川村孝一郎	9:34~ ポスター 鏡視下手術I 座長:中村英一	9:50~ ポスター 鏡視下手術II 座長:山門浩太郎	10:12~ ポスター 距骨骨軟骨損傷 座長:野寄 浩司	10:35~ ポスター 前足部障害I 座長:小久保哲郎	10:57~ ポスター 前足部障害II 座長:谷口 晃	11:25~ ポスター 癒合症I 座長:神崎至幸	11:41~ ポスター 癒合症II 座長:宮城 登	12:03
1F 小会議室1	8:30~10:10 ハンズオンセミナー7 講師:佐本 憲宏、神崎 至幸 共催:ライト・メディカル・ジャパン											
1F 小会議室2				10:15~11:55 ハンズオンセミナー8 講師:安田 稔人 共催:ジョンソン・エンド・ジョンソン								

	13:00		14:00		15:00		16:00		17:00		18:00
		13:40~14:40 特別講演 運動と認知機能 川島 隆太 座長：寺本 司			14:50~15:50 招待講演 2 Management of Foot & Ankle Fractures and Reconstructions - Past, Present and Future Les Grujic 座長：久保 俊一		16:00~17:30 パネルディスカッション 2 踵骨関節内骨折 -私の勤める治療法 座長：北田 力 大関 覚		17:35~	閉 会 式	
12:30~13:30 ランチョンセミナー 4 Lesser toe 障害の 病態と治療 田中 康仁 座長：奥田 龍三 共催：中外製薬	13:40~14:20 主題 踵骨骨折 座長： 笹島 功一		14:20~15:00 主題 腫瘍・ 腫瘍類似疾患 座長： 堀田 哲夫		15:00~15:25 一般 血行障害 座長： 早稲田 明生		15:30~16:25 一般 基礎研究 I 座長：青木 孝文 山口 智志		16:25~17:20 一般 基礎研究 II 座長：石井 朝夫 岡田 洋和		
		13:40~14:10 一般 超音波検査 座長： 垣花 昌隆	14:10~14:35 一般 エコー下 ブロック 座長： 藤岡 宏幸	14:40~15:25 一般 距骨骨軟骨 損傷 座長： 門田 聡		15:25~16:00 一般 疲労骨折 座長： 大久保 衛		16:05~16:35 一般 靭帯損傷 I 座長： 渡邊 耕太	16:35~17:05 一般 靭帯損傷 II 座長： 亀山 泰		
12:30~13:30 ランチョンセミナー 5 骨粗鬆症に伴う足の痛み、 診断と治療に役立つ知識 橋本 淳 座長：山本 謙吾 共催：エーザイ	13:40~14:40 杜の都セミナー 3 栃木 祐樹 杉本 和也 座長：杉本 和也 栃木 祐樹		14:50~15:50 アフタヌーンセミナー 足の外科用語の逸話 国分 正一 座長：高尾 昌人 共催：第一三共		16:00~17:00 杜の都セミナー 4 落合 達宏 和田 郁雄 座長：和田 郁雄 落合 達宏						
									17:00~ ポスター撤去		
12:03~13:40 ポスター閲覧	13:40~ ポスター 糖尿病足・ シャルコー 関節 I 座長： 上條 哲	13:56~ ポスター 糖尿病足・ シャルコー 関節 II 座長： 吉野伸司	14:18~ ポスター 疲労 骨折 座長： 山田隆宏	14:41~ ポスター 足趾・ 足関節 変形 I 座長： 金城 健	15:03~ ポスター 足趾・足関 節変形 II 座長： 福岡 真二	15:30~17:00 ポスター閲覧			17:00~ ポスター 撤去		
	13:40~15:20 ハンズオンセミナー 9 講師：大関 覚 座長：落合 達宏 共催：日本メディカルネクスト										

講演・セミナー

シンポ・パネル

主題 1 日目

主題 2 日目

一般 1 日目

一般 2 日目

ポスター 1 日目

ポスター 2 日目

The 38th Annual Meeting of the Japanese Society for Surgery of the Foot : Schedule

October 30 (Wed), 2013

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
1F Meeting Room 1						
1F Meeting Room 2						
2F Hagi						

October 31 (Thu), 2013

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	
Room 1 2F MainHall	8:10~9:10 Instructional Lecture Post-traumatic Osteoarthritis: Pathomechanisms and Potential Prevention Strategies Yuki Tochigi Moderator: Junichi Monji		9:15~10:45 Symposium 1 The cause and treatment of residual deformity and/or relapse of congenital clubfoot treated by Ponseti method Moderators: Atsushi Kita Kenjiro Wakabayashi		10:50~11:50 Invited Lecture 1 Cartilage reconstruction in the foot and ankle Hajo Thermann Moderator: Masato Takao		
Room 2 2F Tachibana	8:10~8:55 Oral Session Hallux valgus: basic research and evaluation I Moderator: Norihiro Samoto	8:55~9:25 Oral Session Hallux valgus: basic research and evaluation II Moderator: Tohru Hoshino	9:25~9:50 Topics Conservative treatment for hallux valgus Moderator: Toshihiko Uchida	9:50~10:20 Oral Session Severe hallux valgus deformity Moderator: Toshito Yasuda	10:25~10:55 Topics External fixation Moderator: Takanobu Nakase	10:55~11:25 Topics Paralytic foot deformity Moderator: Jiro Machida	11:55~12:55 Luncheon Seminar 1 Hisateru Niki Moderator: Yasunori Suda Co-sponsored: Hisamitsu Pharmaceutical Co., Inc.
Room 3 2F Sakura	Ankle osteoarthritis: Biomechanics Moderator: Seiji Watanabe		8:50~9:10 Oral Session Moderator: Seiji Watanabe	9:10~9:50 Oral Session Ankle osteoarthritis: Osteotomy I Moderator: Watanabe Koji	9:50~10:35 Oral Session Ankle osteoarthritis: Osteotomy II Moderator: Koichiro Tashiro	10:40~11:35 Oral Session Ankle osteoarthritis: Arthrodesis Moderators: Eiichi Hiraishi Hideji Kura	11:55~12:55 Luncheon Seminar 2 Botulinum toxin for lower limb spasticity Tetsuo Ota Moderator: Mamori Kimizuka Co-sponsored: GlaxoSmithKline
Room 4 3F Shirakashi	8:35~9:10 Oral Session RA foot I Moderator: Yuichiro Yabe	9:15~10:15 Morning Seminar 1 Recent findings of the foot in rheumatoid arthritis Shigeki Momohara Moderator: Eiji Itoi Co-sponsored: Pfizer Japan Inc.	10:20~11:00 Oral Session RA foot II Moderator: Hiromu Ito	11:00~11:40 Oral Session RA foot III Moderator: Shigeki Momohara	11:55~12:55 Luncheon Seminar 3 Treatment for Sports Injury using Low-Intensity Pulsed Ultrasound Takashi Matsushita Moderator: Kazuya Sugimoto Co-sponsored: Teijin Pharma Ltd.		
Poster ① & Exhibition 2F Hagi	8:30~10:30 Poster Mounting			10:30~14:40 Poster Viewing			
Poster ② 3F	8:30~10:30 Poster Mounting			10:30~18:00 Poster Viewing			
1F Meeting Room 1	8:30~10:10 Hands-on Seminar 3 Co-sponsored: MEIRA						
1F Meeting Room 2				10:15~11:55 Hands-on Seminar 4 Co-sponsored: Stryker Japan			
Sendai City Museum							

13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
		15:00~16:40 Hands-on Seminar 1 Co-sponsored: KCI				
				16:50~18:30 Hands-on Seminar 2 Co-sponsored: Nippon Sigmex Co., Ltd.		
		16:00~19:00 Registration, Instructional Lecture Registration, PC Registration, Poster Mounting				

13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00				
13:00~13:30 General Meeting	13:30~14:30 Keynote Lecture The present status of Japanese Society for Surgery of the Foot and current problems before us Mitsuo Kinoshita Moderator: Masahito Hatori	14:40~16:10 Video Panel Discussion Knack and pitfall of hallux valgus surgery Moderators: Norio Usami Masahiko Noguchi		16:20~17:50 Panel Discussion 1 Present state of bone correction for the treatment of paralytic foot Moderators: Tatsuhiro Ochiai Kazuo Ouchi						
SAFE-Q, Japan's contribution to the international community for a worldwide subjective assessment: Why is it needed and How is it used ?		14:35~15:15 Topics Endoscopic surgery Moderator: Hideo Noguchi	15:15~15:40 Oral Session Total ankle arthroplasty Moderator: Tadashi Fujii	15:40~16:20 Topics Conservative treatment for Achilles tendon rupture Moderator: Teruo Furufu	16:30~18:00 Korean-Japanese Combined Symposium Difficult Sports Injuries of the Foot and Ankle Moderators: Takeshi Hashimoto Kyung Tai Lee					
						19:00~ Reception				
		14:35~15:20 Oral Session Achilles tendon rupture and disorders Moderator: Ken Innami	15:20~15:45 Oral Session Lisfranc joint injury Moderator: Atsushi Shiranita	15:50~16:50 Mori no Miyako Seminar 1 Masato Takao Tsukasa Teramoto Moderators: Tsukasa Teramoto Masato Takao		17:00~18:00 Mori no Miyako Seminar 2 Yuichiro Yabe Masahiko Noguchi Moderators: Masahiko Noguchi Yuichiro Yabe				
14:40~18:03 Poster Session First row		14:40~ Infection, Arthritis I Moderator: Yasunori Taniguchi	14:56~ Infection, Arthritis II Moderator: Hirofumi Tanaka	15:12~ Tumors I Moderator: Kazuki Kanazawa	15:34~ Tumors II Moderator: Kyoji Okada	16:02~ Tumors III Moderator: Hisaya Nakajima	16:29~ Tumors IV Moderator: Osamu Dohi	16:51~ Rheumatoid arthritis Moderator: Hiroaki Shima	17:14~ Wound Healing Moderator: Koichi Akiyama	17:30~ Talar fractures and dislocations Moderator: Takayuki Nishiyama
14:40~17:57 Poster Session Second row		14:40~ Fractures, Dislocations I Moderator: Tomonori Atsuta	15:07~ Fractures, Dislocations II Moderator: Kentaro Tanaka	15:29~ Fractures, Dislocations III Moderator: Koichi Kataoka	15:57~ Sports injury and disorders I Moderator: Atsushi Kato	16:19~ Sports injury and disorders II Moderator: Takashi Ogiuchi	16:41~ Adult fl atfoot deformity Moderator: Toshinori Kurashige	17:08~ External fixation Moderator: Takeshi Kashiwagura	17:24~ Tendon injury Moderator: Hiroko Ikezawa	
		14:40~16:20 Hands-on Seminar 5 Co-sponsored: MDM Japan				16:25~18:05 Hands-on Seminar 6 Co-sponsored: Biomet Japan, Inc.				
						17:00~19:00 Sendai City Museum Tour				

Lecture & Seminar

Symposium & Panel Discussion

Topics
October 31Topics
November 1Oral Session
October 31Oral Session
November 1Poster
October 31Poster
November 1

The 38th Annual Meeting of the Japanese Society for Surgery of the Foot : Schedule

November 1 (Fri), 2013

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00							
Room 1 2F MainHall		9:00~10:30 Symposium 2 Disorders of the foot and ankle - triangle of clinical feature, imaging and pathology Moderators: Hisateru Niki Tsukasa Kumai		10:40~12:10 Special Symposium My history and future prospect of foot and ankle surgery Masato Sato, Suguru Inokuchi Haruyasu Yamamoto, Yoshinori Takakura Moderators: Yasuhiro Tanaka Atsushi Hasegawa								
Room 2 2F Tachibana	8:30~9:15 Oral Session Surgical treatment of hallux valgus: Locking plate Moderator: Hiroaki Shima	9:15~9:45 Oral Session Surgical treatment of hallux valgus: Mann procedure Moderator: Ryuzo Okuda	9:45~10:15 Oral Session Surgical treatment of hallux valgus: Distal metatarsal osteotomy Moderator: Kengo Yamamoto	10:15~10:45 Oral Session Surgical treatment of hallux valgus: DLMO procedure Moderator: Yasunori Suda	10:50~11:20 Oral Session Forefoot disorders, Osteochondrosis Moderator: Eiichi Machida	11:20~11:50 Oral Session Diabetic foot, Charcot joint Moderator: Jyotoku Tsuoyoshi	11:50~12:15 Oral Session Clubfoot, Paralytic foot Moderator: Shinichi Satsuma					
Room 3 2F Sakura			10:00~10:30 Oral Session Flatfoot deformity Moderator: Kazuya Ikoma	10:40~11:10 Symposium- related Imaging Moderator: Naoki Haraguchi	11:10~11:40 Oral Session Imaging I Moderator: Makoto Kubota	11:40~12:05 Oral Session Imaging II Moderator: Ichiro Yoshimura						
Room 4 3F Shirakashi	8:00~9:00 Morning Seminar 2 Required Advances for Improved Outcome of TAA in Patients with Rheumatoid Arthritis Jun Hashimoto et al. Moderator: Satoru Ozeki Co-sponsored: Nakashima Medical Co., Ltd.	9:05~9:40 Topics Treatment of distal tibial fractures Moderator: Toru Sato	9:40~10:05 Oral Session Distal tibial fractures Moderator: Hiroshi Fujii	10:05~10:35 Oral Session Fractures (Tarsal bone and others) Moderator: Shuji Isefuku	10:40~11:15 Oral Session Ankle fractures I Moderator: Masato Okada	11:15~11:50 Oral Session Ankle fractures II Moderator: Kazutaka Otsuka	11:50~12:20 Oral Session Planter fasciitis Moderator: Toshio Inoue					
Poster① & Exhibition 2F Hagi	8:00~17:00 Poster Viewing											
Poster ② 3F	8:00~ Poster Session Achilles tendon rupture and disorders I Moderator: Akira Fukuda	8:22~ Poster Session Achilles tendon rupture and disorders II Moderator: Hiroyuki Suzuki	8:44~ Poster Session Achilles tendon rupture and disorders III Moderator: Tetsuya Taguchi	9:11~ Poster Session Impingement syndrome Moderator: Koichiro Kawamura	9:34~ Poster Session Endoscopic surgery I Moderator: Eiichi Nakamura	9:50~ Poster Session Endoscopic surgery II Moderator: Kotaro Yamakado	10:12~ Poster Session Osteochondral lesion of the talus Moderator: Koji Noyori	10:35~ Poster Session Forefoot disorders I Moderator: Tetsuro Kokubo	10:57~ Poster Session Forefoot disorders II Moderator: Akira Taniguchi	11:25~ Poster Session Coalition I Moderator: Noriyuki Kanzaki	11:41~ Poster Session Coalition II Moderator: Noboru Miyagi	12:03
1F Meeting Room 1		8:30~10:10 Hands-on Seminar 7 Co-sponsored: Wright Medical Japan K.K.										
1F Meeting Room 2				10:15~11:55 Hands-on Seminar 8 Co-sponsored: Johnson & Johnson K.K. DePuy Synthes Japan								

	13:00		14:00		15:00		16:00		17:00		18:00
		13:40~14:40 Special Lecture Relation between Cognitive Functions and Physical Exercises Kawashima Ryuta Moderator: Tsukasa Teramoto		14:50~15:50 Invited Lecture 2 Management of Foot & Ankle Fractures and Reconstructions - Past, Present and Future Les Grujic FRACS Moderator: Toshikazu Kubo		16:00~17:30 Panel Discussion 2 Intra-articular calcaneal fracture - My recommended surgical treatment Moderators: Chikara Kitada Satoru Ozeki		17:35~ Closing Ceremony			
12:30~13:30 Luncheon Seminar 4 Lesser toe disorders - Clinical conditions and treatment methods Yasuhiro Tanaka Moderator: Ryuzo Okuda Co-sponsored: Chugai Pharmaceutical Co., Ltd.	13:40~14:20 Topics Calcaneal fractures Moderator: Kouichi Sasajima	14:20~15:00 Topics Tumor and tumor-like lesions Moderator: Hotta Tetsuo	15:00~15:25 Oral Session Vascular disturbance Moderator: Akeo Waseda	15:30~16:25 Oral Session Basic science I Moderators: Takafumi Aoki Satoshi Yamaguchi	16:25~17:20 Oral Session Basic science II Moderators: Tomoo Ishii Hirokazu Okada						
	13:40~14:10 Oral Session Ultrasonography Moderator: Masataka Kakihana	14:10~14:35 Oral Session Ultrasound-guided nerve block Moderator: Hiroyuki Fujioka	14:40~15:25 Oral Session Osteochondral lesion of the talus Moderator: Satoshi Monden	15:25~16:00 Oral Session Stress fractures Moderator: Mamoru Okubo	16:05~16:35 Oral Session Ankle ligament injury I Moderator: Kota Watanabe	16:35~17:05 Oral Session Ankle ligament injury II Moderator: Yasushi Kameyama					
12:30~13:30 Luncheon Seminar 5 Foot pain in elderly patients that postfracture osteoporosis intervention should be indicated in Jun Hashimoto Moderator: Kengo Yamamoto Co-sponsored: Eisai Co., Ltd.	13:40~14:40 Mori no Miyako Seminar 3 Yuki Tochigi Kazuya Sugimoto Moderators: Kazuya Sugimoto Yuki Tochigi		14:50~15:50 Afternoon Seminar Anecdota on Technical Terms Related to Foot Surgery Shoichi Kokubun Moderator: Masato Takao Co-Sponsored: Daiichi Sankyo Company, Ltd.		16:00~17:00 Mori no Miyako Seminar 4 Tatsuhiko Ochiai Ikuo Wada Moderators: Ikuo Wada Tatsuhiko Ochiai						
									17:00~ Poster Removing		
12:03~13:40 Poster Viewing	13:40~ Poster Session Diabetic foot, Charcot joint I Moderator: Satoshi Kamijo	13:56~ Poster Session Diabetic foot, Charcot joint II Moderator: Shinji Yoshino	14:18~ Poster Session Stress Fractures Moderator: Takahiro Yamada	14:41~ Poster Session Foot deformity I Moderator: Takeshi Kinjo	15:03~ Poster Session Foot deformity II Moderator: Shinji Fukuoka	15:30~17:00 Poster Viewing		17:00~ Poster Removing			
		13:40~15:20 Hands-on Seminar 9 Co-sponsored: Japan Medicalnext Co., Ltd.									

Lecture & Seminar

Symposium & Panel Discussion

Topics
October 31Topics
November 1Oral Session
October 31Oral Session
November 1Poster
October 31Poster
November 1

プログラム / Program

10月31日 日 困 / October 31 (Thu)

第1会場 (大ホール) / Room 1 (Main Hall)

8:00～8:10 開会式 / Opening Ceremony

開会の辞 Opening address

会長：羽鳥 正仁 / President : Masahito Hatori

8:10～9:10 教育研修講演 / Instructional Lecture

座長：門司 順一 (札幌クラーク病院)

Moderator : Junichi Monji (Clark Hospital)

外傷性関節症の発症メカニズムと予防戦略

Post-traumatic Osteoarthritis : Pathomechanisms and Potential Prevention Strategies

栃木 祐樹 獨協医科大学越谷病院 整形外科 /
アイオワ大学整形外科バイオメカニクス研究室

Yuki Tochigi Department of Orthopaedics, Dokkyo Medical University Koshigaya Hospital /
Orthopaedic Biomechanics Laboratory, University of Iowa

9:15～10:45 シンポジウム 1 / Symposium 1

座長：北 純 (仙台赤十字病院)、若林 健二郎 (名古屋市立大学)

Moderators : Atsushi Kita (Japanese Red Cross Sendai Hospital)、Kenjiro Wakabayashi (Nagoya City University)

Ponseti 法による先天性内反足治療後の変形遺残・再発の原因と対策
The cause and treatment of residual deformity and/or relapse of congenital clubfoot treated by Ponseti method

S1-1 Ponseti 法による先天性内反足治療後の変形遺残・再発に対して追加手術を行った症例の検討

The results of surgical treatments for the relapses of the idiopathic clubfoot treated by the Ponseti method

名倉 温雄 他 大阪府立母子保健総合医療センター 整形外科

Akio Nakura et al. Dept. of Orthop. Surg., Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health

S1-2 Ponseti 法による先天性内反足治療の変形遺残・再発例の検討

Clinical analysis of remaining deformities and/or relapses of congenital clubfoot treated by the Ponseti method

後藤 昌子 他 仙台赤十字病院 整形外科

Masako Goto et al. Dept. of Orthop. Surg., Japanese Red Cross Sendai Hosp.

S1-3 Ponseti 法による内反足治療後の遺残・再発変形に対する前脛骨筋移行術

Anterior tibial tendon transfer for residual or recurrent deformities of clubfoot after Ponseti method

北小路 隆彦 他 あいち小児保健医療総合センター整形外科

Takahiko Kitakoji et al. Aichi Children's Health and Medical Center, Department of Orthopedic Surgery

S1-4 Ponseti 法後の遺残(再発)変形にたいする当院の治療戦略

Treatment for recurrence of clubfoot deformity after using the Ponseti method

垣花 昌隆 他 獨協医科大学越谷病院

Masataka Kakihana et al. Dept. of Orthop. Surg Dokkyo Med. Univ. Koshigaya Hospital, Saitama, Japan

S1-5 Ponseti 法後の遺残変形と再発の危険因子

Risk factors for residual deformity or relapse of clubfoot treated by Ponseti method

薩摩 眞一 他 兵庫県立こども病院 整形外科

Shinichi Satsuma et al. Dept. of Orthop. Surg., Kobe Children's Hospital, Hyogo, Japan

10:50~11:50 招待講演 1/ Invited Lecture 1

座長：高尾 昌人(帝京大学)

Moderator: Masato Takao (Teikyo University)

Cartilage reconstruction in the foot and ankleHajo Thermann Centre for Hip-, Knee- and Foot Surgery,
Sports Traumatology, ATOS Clinic, Heidelberg

13:00~13:30 総 会 / General Meeting

13:30~14:30 基調講演 / Keynote Lecture

座長：羽鳥 正仁(東北公済病院)

Moderator: Masahito Hatori (Tohoku Kosai Hospital)

日本足の外科学会の現状と課題

The present status of Japanese Society for Surgery of the Foot and current problems before us.

木下 光雄 西宮協立脳神経外科病院

Mitsuo Kinoshita Nishinomiya Kyoritsu Neurosurgical Hospital

〔 外反母趾手術の実際 そこが知りたい手術のコツ 〕
Knack and pitfall of hallux valgus surgery

VPD-1 第1中足骨遠位骨切り術による外反母趾の治療 —術式と成功させるコツ—

Surgical treatment of distal oblique osteotomy of the first metatarsus for hallux valgus-technique and pitfall

倉 秀治 悠仁会 羊ヶ丘病院 整形外科
Hideji Kura Dept. of Orthop. Surg., Hitsujigaoka Hospital

VPD-2 DLMO 法

Surgical technique of DLMO for the correction of hallux valgus deformity

須田 康文 他 慶應義塾大学整形外科
Yasunori Suda et al. Dept. of Orthop. Surg., Keio University, Tokyo, Japan

VPD-3 重度外反母趾に対する第1中足骨水平骨切り術の実際

A horizontal metatarsal osteotomy for severe hallux valgus

田中 康仁 他 奈良県立医科大学 整形外科
Yasuhito Tanaka et al. Dept. of Orthop. Surg., Nara Medical University

VPD-4 外反母趾に対する回旋矯正を加えた近位中足骨三日月状骨切り術
—成績向上を目指したさらなる一歩—

Proximal Crescentic Osteotomy with Rotational Correction for Hallux Valgus :
One More Step Forward for Improving Outcomes

奥田 龍三 他 清仁会シミズ病院 整形外科
Ryuzo Okuda et al. Department of Orthopaedic Surgery, Shimizu Hospital, Kyoto, Japan

VPD-5 Lapidus 変法と CMOS の実際

The modified Lapidus procedure and CMOS (Combined Metatarsal Osteotomies for Shortening) for non-rheumatoid and complex forefoot deformity

仁木 久照 他 聖マリアンナ医科大学 整形外科学講座
Hisateru Niki et al. Department of Orthopaedic Surgery, St. Marianna University School of Medicine

2P-51 距骨体部が高度圧潰したシャルコー足関節に対する脛踵間固定術
TibioCalcaneal Fusion for Charcot Ankle After Severe Talar Body Bone Loss

相川 敬男 他 金沢大学 整形外科
Takao Aikawa et al. Department of Orthopaedic Surgery, Gradual School of Medical Science,
Kanazawa University, Ishikawa, Japan

14:18~14:40 疲労骨折 / Stress Fractures

座長：山田 隆宏(平塚病院)

Moderator : Takahiro Yamada (Saiseikai Hiratsuka Hospital)

2P-52 腓骨筋結節に疼痛を生じ手術を行った一例
Painful Peroneal Tubercle, A Surgical Case Report

中山 修一 他 東京通信病院 整形外科
Shuichi Nakayama et al. Dept. of Orthop. Surg., Tokyo Teishin Hospital, Tokyo, Japan

2P-53 ほぼ同時期に発生した両母趾基節骨疲労骨折の1例
A case of fatigue fractures in bilateral proximal phalanx of tgreat toe

中村 恭啓 岡山旭東病院 整形外科
Yasuhiro Nakamura Dept. of Orthop. Surg., Okayama Kyokuto Hospital, Okayama, Japan

2P-54 偽関節になった足舟状骨疲労骨折に対する治療経験 — 1例報告
surgical management of nonunion of navicular stress fracture - case report

内田 淳 他 函館中央病院 整形外科
Jun Uchida et al. Dept. of Orthop. Surg., Hakodate Central General Hospital, Hokkaido, Japan

2P-55 足舟状骨疲労骨折症例の治療経験
Treatment for Stress Fracture of the Tarsal Navicular

小笠 博義 他 山口大学医学部附属病院 整形外科
Hiroyoshi Ogasa et al. Department of Orthopedic Surgery, Yamaguchi University Hospital, Ube,
Japan

14:41~15:03 足趾・足関節変形 I / Foot deformity I

座長：金城 健(沖縄県立南部医療センター・こども医療センター)

Moderator : Takeshi Kinjo (Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center and Childrens Medical Center)

2P-56 下肢回旋異常に伴った一次性変形性足根中足関節症の2例
Two cases of primary osteoarthritis of the tarsometatarsal joints with rotational malalignment
of the lower extremity

大橋 鈴世 他 京都府立医大大学院 運動器機能再生外科学(整形外科)
Suzuyo Ohashi et al. Department of Orthopaedics, Graduate School of Medical Science, Kyoto
Prefectural University of Medicine

2P-57 下腿骨変形治癒後の変形性足関節症に対し足関節固定術と下腿骨矯正骨切り術を施行した一例

A case performed arthrodesis of ankle and straightening osteotomy of tibia for tibial deformity and ankle osteoarthritis

舟橋 康治 他 名古屋大学
Koji Funahashi et al. Nagoya University**2P-58** 高度内反尖足変形による難治性潰瘍に対し距骨体部切除術を施行した 1 例

Case report : Talar Body Subtotal Talectomy for Talipes Equinus Deformity and Intractable Ulcer

赤根 真央 他 トヨタ記念病院
Mao Akane et al. Toyota Memorial Hospital, Aichi, Japan**2P-59** 内反凹足変形に対するギプス矯正療法の新たな試み

New approaches cast correction therapy for pes cavovarus deformity

金城 健 他 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター整形外科
Takeshi Kinjo et al. Department of Orthopedics Surgery, Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center and Childrens Medical Center

15:03~15:30 足趾・足関節変形Ⅱ / Foot deformity Ⅱ

座長：福岡 真二（福岡県立粕屋新光園）

Moderator : Shinji Fukuoka (Kasuya Shinkouen Hospital)

2P-60 距骨下関節脱臼を伴う足部変形を呈した Charcot-Marie-Tooth 病の治療経験

Treatment experience of Charcot-Marie-Tooth disease with the subtalar joint dislocation

水野 稚香 他 宮城県拓桃医療療育センター
Chika Mizuno et al. Dept. of Orthop. Surg., Takuto Rehabilitation Center for Children, Sendai, Japan**2P-61** 先天性脛骨欠損症 Jones 分類 type4 (遠位脛腓間離開) の治療経験

Treatment for Congenital diastasis of the inferior tibiofibular joint : A case report

渡邊 誠治 他 愛媛大学医学部 整形外科
Seiji Watanabe et al. Dept. of Bone and Joint Surg, Ehime University Graduate School of Medicine, Ehime, Japan**2P-62** ポリオ後遺症による踵足変形に対し踵骨延長術にて加療した 1 例

Calaneal lengthening for pes calcaneus caused by polio myelitis : A case report

亀田 壮 他 奈良県立医科大学 整形外科
So Kameda et al. Dept. of Orthop. Surg., Nara Medical University, Nara, Japan**2P-63** 筋緊張性ジストロフィー患者に生じた両側下腿過外捻症の一例

A case of Bilateral External Torsion of the Tibia occur in Myotonic Dystrophy

荒木 勸 他 滋賀医大 整形外科
Susumu Araki et al. Dept. of Orthop. Surg., Shiga University of Medical Science, Shiga, Japan**2P-64** ジストニアによる足部変形の矯正手術

Correction of Foot Deformity Associated with Dystonia

酒井 典子 他 新生病院 整形外科
Noriko Sakai et al. New Life Hospital, Nagano, Japan

基 調 講 演

特 別 講 演

招待講演 1, 2

教育研修講演

モーニングセミナー MS1.2

ランチオンセミナー LS1~5

アフタヌーンセミナー

杜の都セミナー MS1~4

日本足の外科学会の現状と課題

木下 光雄

西宮協立脳神経外科病院

日本足の外科学会は、先達のご尽力と会員の皆様のお力添えをいただき1976年の研究会発足以来着実に発展し、現在1,200名(2013年3月1日現在)の会員を擁するまでになりました。本学会の機構としては2010年に理事・評議委員制をしき、各種委員会を設置して諸案件への具体的対応を可能にし、総会での最終承認を経て活動をすすめる民主的ルールにのっとった運営がなされています。このことにより、臨床倫理や利益相反といった学会活動に付随してくる諸問題への対応にも遺漏が生じないような体制が構築されたと言えます。

本学会は、国際足の外科学会(IFFAS: International Federation of Foot and Ankle Society)を構成する4地域の1つであるアジアの足の外科学会(AFFAS: Asian Federation of Foot and Ankle Surgeons)の下部組織でもあり、その活動を通じて国際的な貢献もしてまいりました。

厚生労働省は「健康づくりのための身体活動基準2013」のなかで身体活動の増加でリスクを低減できるものとしてロコモティブシンドロームを挙げており、整形外科には大きな責務が課せられていると申せましょう。なかでも、歩行に直接的に関わる足の外科の重要性は論を俟たないものであり、本学会からのさらなる情報発信が求められているところであります。しかし、本学会を取り巻く環境には厳しいものがあり、国内外ともに多くの懸案事項を抱えています。フットケアなどに関しては足の外科学会が十分に認知されているとは言い難い状況にあり、今後積極的に関わっていく必要があります。また、国際的にはアジア足の外科学会を堅固な組織に再構築する必要にせまられており、本学会が中核となり、地域の足の外科の発展・向上に資する組織にしていかなければなりません。さらに、本学会がさらに発展し国際的な評価を継続して得るためには、学術面における貢献が、まず求められます。このためには、日本から質的に優れた研究成果を数多く発信することが必須であり、学会のあり方もこれ沿ったものにしたいと考えています。

運動と認知機能

川島 隆太

東北大学加齢医学研究所

我々は、脳機能イメージング技術を使って、人間が思考をしたり運動をしたりしている時の脳活動を画像化する研究を行っている。そうした装置の代表例として機能的MRIがあるが、MRI装置の中に仰臥して撮像をするために、実験室環境下での脳活動しか記録することができなかった。最近、我々は、大脳皮質の活動の可視化が可能な近赤外分光装置を超小型化することに成功し、日常生活環境下での脳活動計測を開始している。

この超小型装置を用いて、集団で密集して歩行している時の脳活動を計測した。各自が急いで歩行しようとする時、渋滞が生じ歩行速度はかえって落ちてしまう。しかし一定のリズムに合わせて歩行をさせると渋滞は生じず、歩行速度が増加しスムーズに移動できる。興味深いことに、その時に前後する被験者の背内側前頭前野の活動が同期していることを発見した。背内側前頭前野は他者の気持ちを慮るなど、高次のコミュニケーションに関わる領域である。スムーズな集団行動は、個人間のコミュニケーションに関わる脳活動の同期現象がカギとなっているのかもしれない。

また、我々は、健常人を対象とした、さまざまな生活介入研究を行っているが、これらの研究成果の中から、認知介入(記憶トレーニング)が運動機能を向上させた例、逆に運動介入(サーキット・トレーニング)が認知機能を向上させた例が出てきている。トレーニングを行うと、そのトレーニングに直接関わる能力が学習効果によって向上することは良く知られているが、トレーニングとは関係のない能力が向上する「転移効果、もしくは般化効果」が生じたこと、それも運動と認知機能の間で双方向性に生じたことは大変に興味深い。

いずれの研究結果も、運動と認知機能の間の密接な相補的關係を示唆している。今後、動物実験なども応用しながら、この相補的關係、特に手軽な有酸素運動の代表である歩行と認知機能の関連の生物学的メカニズムの解明を行っていく予定である。

MS4-2

小児期にみられる外反扁平足および 関連疾患の病態と診療

和田 郁雄

名古屋市立大学病院 リハビリテーション部

【はじめに】小児期にみられる様々な扁平足 (flatfoot) あるいは扁平足変形を特徴とする疾患を取り上げ、その病態を含めた新旧の知見について概説するとともに、最近導入され始めた診療技術を含めた診断、治療について述べる。

【病態・診断・治療・トピックスなど】出生直後からみられる変形としては、先天性垂直距骨や外反踵足変形がある。垂直距骨は先天性内反足と比肩する先天性足部疾患で、遺伝子異常や筋線維タイプ異常を有することがある。特徴は船底(凸)足変形で、骨格異常として Chopart 関節を中心に前足部の背屈変形と後足部の尖足変形を有する。外反踵足は子宮内鑄型による packaging とされ、幼児期に扁平足へ進展するとされるが明確ではない。注意すべき点は先天性内転足などとともに先天性股関節脱臼の合併頻度が高いこと。

始歩以降には関節弛緩性あるいは動的不安定性を基盤とした外反扁平足がよくみられる。前者の多くは自然矯正が得られることから、治療の要否について議論がされる事が少なくない。後者の一部は保存治療に抵抗し、観血治療を行う場合もある。その他、アキレス腱の緊張、短縮に伴う扁平足も脳性麻痺などを中心に生ずる。

10歳前後には、足根骨癒合症に伴う peroneal spastic flatfoot がみられる。ほとんどが歩行時痛を訴え、癒合部切除を余儀なくされる。その他、外脛骨に合併する扁平足もスポーツ障害の部分症としてよく見る。保存治療を第1選択とするが、外脛骨切除あるいは癒合術も行われる。

【結語】小児期扁平足の診断・治療にあたっては、発症時期や付随する徴候を参考とし、画像上の特徴から診断は比較的容易であろう。自然矯正するものや保存治療で症状が消失するものも少なくない。従って、疾患個々の natural history を知悉し、overtreatment にならぬように心がける事が肝要である。

講演・セミナー

シンポ・パネル

主題
1目目

主題
2目目

一般
1目目

一般
2目目

ポスター
1目目

ポスター
2目目

A series of horizontal dotted lines for writing, starting below a solid top line and ending above a solid bottom line.

特別企画シンポジウム SS

シンポジウム S1、S2

**Korean-Japanese
Combined Symposium KS**

ビデオパネルディスカッション VPD

パネルディスカッション PD1、PD2

SS-1

小児の足の疾病の治療

○佐藤 雅人
佐藤整形外科

私は1983年から23年間小児病院に勤務し、小児の足の疾病の治療に携わってきたので、この経験について述べる。

1. 先天性疾患、先天異常

- 1) 先天性内反足：当時は尖足、内転、内反、凹足の変形を同時に徒手矯正するというのが主流であった。この方法で行ってきたが、どうしても前足部内転が残存した例が多かった。2000年以降、Ponsetiの提唱する尖足をそのままにし、この内転から段階的に矯正する方法が注目されるようになった。その後アキレス腱延長をするわけであるが、これなしで済ませることができかねる今後の保存的治療の挑戦であると考えられる。
- 2) 第5趾多趾：最も頻度の高い先天異常で、どういふ手術法がいいのか苦慮した。経験からは骨軸を合わせるには中足骨型は腓骨側の切除、趾骨型では脛骨側の切除が良いことがわかった。

2. 発達、発育異常

足の成長：幼稚園での調査では、3歳から6歳にかけて足長は約1年間に約1cm長くなり、一方足幅は1~2mm増加する程度であった。その結果、扇型の足から細長い成人の足へと狭長化が進むことが分かった。またアーチは3~4歳までに形成されるが、アーチができない子が増えているように思えた。運動不足、その場所もない、子ども靴の悪さ等、外反扁平足は将来も問題である。

3. 成長に伴う足の変形

外反母趾：小、中学校の調査で女子では growth spurt の時期にほぼ一致して母趾の外反角が増加する。これは特発性側弯症の発症時期と同じで、急激な成長時期に骨、関節の変形が生じる危険性が高いと思われた。側弯症の検診のように足の検診も必要ではないかと思われる。

SS-2

足の外科から足医学へ

○井口 傑
文化学園大学 教授

私の足の外科は、外傷での経験、手の外科で学んだ手術手技、生理、病理の工学的理解が3本の柱で、機能再建がその要である。2足歩行がその機能の根本であり、足底接地と踏み返しが痛み無くできることが目標である。このためには距骨周囲の関節運動と力の伝達、MTP 関節ラインでの荷重性が重要である。そこで、距骨骨折と外反母趾を中心に工夫を重ねてきた。地面に近いMTP 関節と距骨下関節こそが歩行の影響を最も受けやすい部位である。

「ロコモ」が叫ばれる現在、足の重要性に疑いはない。しかし、メスを置いて3年、「足科」の必要性を強く感じる。足の「外科」の名称に引っ張られ、糖尿病足等の足に関連する疾患から距離を置き、装具などの保存療法を軽く見る嫌いが無いだろうか。足は我々の専門領域として嫌われても関与していく気概が必要である。また、運動を考えると、足こそが不動の原点であり、足から体を眺めてみると、新たな視点が開ける。

PD2-5

踵骨骨折に対するロッキングプレートによる骨接合術の治療成績

○伊東 勝也¹⁾、奥田 真義¹⁾、勝井 龍平¹⁾、
田中 康仁²⁾、高岡 孝典³⁾

- 1) 医真会八尾総合病院 整形外科、
2) 奈良県立医科大学 整形外科、
3) 高岡医院 整形外科

【目的】 陥没型、粉碎型および外側壁の変形圧潰のある舌状型踵骨骨折に対して外側侵入によるロッキングプレート固定術を行い、従来より早期に荷重を開始したが矯正損失もなく良好な成績を得たので報告する。

【方法】 2010年12月より2012年11月までに当院で手術を行った12例14足のうち6ヶ月以上経過観察が可能であった10例12足を対象とした。男性8名、女性2名、年齢は37歳から68歳、平均51歳で、骨折型はEssex-lopresti分類の舌状3足、陥没4足、粉碎5足、Sanders分類は2が7足、3が5足であった。手術は側臥位で外側より拡大L字アプローチにて侵入し後距踵関節、外側壁および踵骨全体の整復を行いkワイヤーにて仮固定しイメージで確認した後ロッキングプレート(WRIGHT社製DARCOMRS CPSプレート)にて固定した。後療法は外固定は行わず術翌日より可動域訓練と接地を許可、3-4週より部分荷重を開始し7-8週間での全荷重を目標とした。JSSFscale、VAS、ペーラー角の変化、Maxfieldの評価基準を検討した。荷重開始時期、全荷重時期、合併症、観察時変形性関節症、後距踵関節面stepのある症例の有無を調査した。

【結果】 JSSFscaleは68-100平均94点、VASは0-42平均11.5、ペーラー角は術前平均9度、術後26.3度、経過観察時26.1度で矯正損失を認めなかった。Maxfieldの評価基準はexcellent7、good2、fair1例であった。荷重開始時期は3-5平均4週、全荷重時期は6-8週平均7週であった。創治療遅延を1例に、後距踵関節症を1例に認めた。

【考察】 踵骨骨折の問題点は治療後に疼痛が残存しやすい点にある。その原因として後距踵関節症、腓骨筋腱鞘炎、扁平足、関節拘縮や骨萎縮が挙げられる。強固で正確な整復固定の後に早期の可動域訓練と荷重を行うことが遺残疼痛の予防に重要と考えられる。外側侵入によるロッキングプレート固定術はほぼ全ての予後不良因子を理論上制御可能で、実際に成績も良好で推奨できる治療法と思われた。

PD2-6

踵骨関節内骨折術後経過の検討

○池澤 裕子¹⁾、竹島 憲一郎¹⁾、平石 英一²⁾、
早稲田 明生⁴⁾、小久保 哲郎¹⁾、関 広幸¹⁾、
宇佐見 則夫³⁾、戸山 芳昭¹⁾、須田 康文¹⁾

- 1) 慶應義塾大学医学部 整形外科、
2) 永寿総合病院 整形外科、
3) うさみ整形外科、4) 荻窪病院 整形外科

【目的】 踵骨骨折は労働災害や交通外傷で比較的良好に経過する外傷であるが、複雑な骨折形態を呈することや骨萎縮の問題などで治療が長期におよび、さらに二次的障害が生じることを経験する。我々は連続して5年以上通院加療した例を中心に、踵骨骨折初回手術以後の経過について検討した。

【対象と方法】 当院および関連施設において観血的整復固定術術後5年以上経過観察がなされた踵骨関節内骨折11例と初回手術後疼痛のため日常生活や就業が不能であった不良例56例を対象とした。術後の経過とX線等の画像評価を行った。

【結果】 初回手術後良好例(日常生活・仕事に復帰)のX線像ではOA変化が出現した例としない例があったが、1例を除き手術を行った例はなかった。距骨下関節全体が陥凹している例では追加手術例はなかった。初回手術後不良例は56例中固定術を18例に行い、浮上術を35例に行った。固定術4例を除き全例初回治療後3年以内であり、浮上術は2例を除いた33例が1年半以内に行われた。固定術後や浮上術後に追加手術を行ったのは2例で外側靭帯再建術が行われた。周辺関節に著しい関節症変化をきたした例はなかった。

【考察】 成績不良例では大半が初回手術後早期より疼痛を訴えsalvage手術として2回目の手術が3年以内に行われていたことから踵骨骨折の予後は手術後3年までに決定するといえる。良好例では関節面全体が陥凹して整復が不十分でも強い疼痛は生じないことから骨折部の整復以外にも適合性が予後に関与すると考えられた。

主題演題

2-4-108

足底腱膜炎に対する体外衝撃波治療の
治療経過と有効因子

○高橋 謙二、土屋 明弘、蟹沢 泉、酒井 洋紀、
長嶺 智徳、福井 由佳、朱田 尚徳、福田 秀明、
浅井 重博

船橋整形外科病院 スポーツ医学センター

【目的】足底腱膜炎に対する体外衝撃波治療後の効果について、治療後3ヶ月と最終診察時の変化と治療成績に影響する因子について検討すること。

【対象】平成21年4月から平成24年9月までに踵骨付着部に圧痛を有する難治性足底腱膜炎患者に対し体外衝撃波治療(ESWT)を施行し治療後3ヶ月以上経過観察しえた43例48足である。調査項目は朝起床時、運動時、圧痛のVisual Analogue Scale(VAS)と疼痛改善度をnumerical rating scale(NRS)により調査し、治療後3ヶ月と最終診察時(平均6.6ヶ月)の経時的変化を検討した。また、治療成績に影響する因子として、「総エネルギー流速密度(EFD)」「治療回数」「治療間隔」「発症から治療開始までの期間」「ステロイドまたはヒアルロン酸注射歴の有無」「踵骨棘の有無」について、治療後NRSとの関連について検討した。統計学的解析は、one-way ANOVAとMann-Whitney U検定を用い、 $p < 0.05$ を有意差ありとした。

【結果】治療後3ヶ月で48足中37足(77.1%)、最終診察時(平均6.6ヶ月)で40足(83.3%)が有効であった。成績に影響する因子では、「ステロイド注射の既往のある症例」のみが有意に成績良好であり、「踵骨棘」、「発症から治療までの期間」、「ヒアルロン酸の注射歴」「総エネルギー集束密度」、「治療回数」、「治療間隔」には有意な差はなかった。

【考察】足底腱膜炎に対するESWTの治療成績は諸家の報告では47～96%と良好であり、治療後経過観察期間が長いほど有効率は上がる傾向にある。本研究でも短期成績ではあるが、治療後3ヶ月より最終診察時(平均6.6ヶ月)の方が良好な成績であった。また、過去の報告では「ステロイド注射の既往歴」は治療成績に「影響しない」かむしろ「妨げる」との報告のみであるが、本研究では唯一治療成績に有意に影響を与える因子であった。

2-4-109

足底腱膜炎に対する体外衝撃波治療の
効果の検討

○花田 充¹⁾、高橋 正哲²⁾、松浦 康治郎³⁾、
佐々木 嘉光³⁾、小山 博史¹⁾、松山 幸弘¹⁾

1)浜松医科大学 整形外科、2)協立十全病院関節センター、
3)協立十全病院リハビリテーション科

【目的】難治性足底腱膜炎に対する体外衝撃波治療(ESWT)の効果について検討した。

【方法】保存的治療に抵抗性であった足底腱膜炎に対してESWTを施行した41例44膝を対象とし、スポーツを社会人や学生レベルで行っている7例7足、平均年齢26.7歳(S群)、レクリエーションレベルの運動をしている15例17足、平均年齢54.9歳(R群)、運動を行っていない19例20足、平均年齢61.6歳(A群)の3群に分けて検討した。圧痛のほか、S群とR群は運動時、A群は歩行時の疼痛をvisual analog scale(VAS)を用いて評価した。

【結果】運動時(歩行時)VASは、ESWT施行前でS群平均56.4、R群44.2、A群56.1、最終観察時でS群平均12.1、R群16.2、A群34.8であり、3群とも有意に改善した。運動時(歩行時)VAS改善量は、S群平均44.3、R群28.0、A群21.3であり、S群はR群とA群に比較し有意に高値であった。圧痛VASは、ESWT施行前でS群平均35.7、R群43.8、A群47.8、最終観察時でS群平均16.9、R群11.7、A群30.9であり、3群とも有意に改善した。圧痛VAS改善量は、S群平均18.9、R群32.1、A群17.0であり、3群間に有意差はなかった。S群は全例疼痛部位が踵骨付着部であった。R群で4足、A群で1足疼痛が足底腱膜体部にあり、これらのVAS改善量(2.7)は付着部に疼痛がある群(24.6)に比較し、有意に低値であった。

【考察】S群で運動時VASの改善が良好であった。これは、スポーツにおける足底腱膜炎が、腱への反復性の応力負荷によるminor injuryの治癒の遷延が慢性化の主因とすると、ESWTでその治癒が促進される可能性が考えられた。また、R群とA群はスポーツ群より高齢で、腱の加齢変性といった要素で改善が不良である可能性があると考えた。症例は少ないが、体部への照射は有効性が低い可能性があると考えられた。

【結論】足底腱膜炎に対してESWTは有効で、スポーツ選手、レクリエーションレベルでの運動における疼痛に対してより効果的な可能性がある。疼痛が足底腱膜体部にある症例への使用は注意が必要である。

ポスター

1P-01

化膿性関節炎との鑑別診断に難渋した痛風性足関節炎の1例

○野澤 大輔¹⁾、中村 聡²⁾、野内 隆治³⁾、赤荻 博³⁾、石井 朝夫⁵⁾、山崎 正志¹⁾

- 1) 筑波大学医学医療系 整形外科、
- 2) 水戸協同病院 整形外科、
- 3) キッコーマン総合病院 整形外科、
- 4) 茨城西南医療センター 整形外科、
- 5) 東京医科大学茨城医療センター 整形外科

【目的】急性発症の関節炎では、化膿性関節炎と痛風や偽痛風などの結晶性関節炎の鑑別に難渋することがある。感染を疑い緊急手術を行った後に、痛風性関節炎と診断した1例を経験したため、考察を加え報告する。

【症例】43歳の女性で、2～3年前から原因不明の右足関節腫脹、熱感と自然軽快を繰り返し、近医で経過を診られていた。今回、突然、右足関節に今までにない激痛が出現した。当院膠原病内科を紹介、化膿性関節炎の可能性を考え、同日当科紹介受診した。

【現症・経過】足関節～中足部まで腫脹・発赤と、足関節・距骨関節に著明な圧痛を認めた。血液検査所見は白血球、CRPは高値で、尿酸値は正常であった。足関節穿刺で混濁液を採取したため、化膿性足関節炎、距骨関節炎を疑い、鏡視下滑膜切除を行った。関節内は滑膜増生が著明で、関節軟骨表面には白色点状の沈着物が認められた。距骨関節も同様の沈着物が滑膜にあった。術後抗菌薬投与で軽快した。培養は陰性であったが、術後に外注検査で関節液内の尿酸塩結晶が同定された。尿酸値は術後も正常値であったが、徐々に上昇、術後1ヶ月で高値となったため、高尿酸血症の治療を開始した。現在、関節炎の再燃を認めない。

【考察・結論】痛風性関節炎は男性に多く、確定診断には関節液内の尿酸塩結晶の同定が推奨されている。また、痛風発作時の尿酸値は高値を示さないことも多く、本症例のように、迅速な結晶同定が困難な場合、診断に難渋する。近年、超音波検査で、結晶沈着性関節炎の鑑別診断ができるようになってきたが、あまり知られていない。術後5ヶ月の時点で超音波検査を行うと、患側では明らかでなかったが、健側足関節で、痛風に特徴的な Double contour sign を認めた。当時、迅速結晶検査ができなくとも、この知識があれば、手術を行わずに済んだかもしれない。超音波検査は痛風性関節炎の診断に有用で、他関節の所見が有用となることもあると考えられた。

1P-02

足関節に局限した持続性関節炎2症例の治療経験

○松本 憲和、石崎 嘉孝

東大阪市長総合病院 整形外科

【目的】足関節に局限した持続性関節炎の診断には難渋する事が多い。今回、足関節周囲の腫脹、疼痛を来した関節炎の2例を経験したので報告する。

【症例1】48歳女性。6ヵ月間持続する右足関節の腫脹、疼痛を主訴に当科紹介受診。抗核抗体80倍、抗CCP抗体0.8U/ml、CRP 0.53mg/dl。単純Xp、CT画像で右距骨内側の骨浸食像を認め距骨下関節は関節裂隙の狭小化を認めた。造影MR画像で距腿関節を中心とした著明な滑膜増生を認めた。精査加療目的で距腿関節、距骨下関節の鏡視下滑膜生検術を施行した。病理所見で滑膜細胞の重層化、炎症細胞浸潤、毛細血管の増生を認め、RAと矛盾しない組織像であったためMTX 6mg/週投与した。術後15ヵ月、単純MR画像で滑膜増生は軽減しているが新たな骨びらんを認める。

【症例2】40歳女性。10年以上持続する左足関節の腫脹、疼痛を主訴に当科紹介受診。抗核抗体40倍、抗CCP抗体0.8U/ml、CRP 0.11mg/dl。単純Xp、CT画像で距腿関節の関節裂隙の軽度狭小化、脛腓関節の骨浸食像、距骨下関節の骨強直、骨嚢胞を多数認めた。MR画像で距腿関節を中心とした著明な滑膜増生を認めた。精査目的で距腿関節の滑膜生検術を施行した。病理所見で滑膜細胞の重層化、炎症細胞浸潤、毛細血管の増生を認めRAと矛盾しない組織像であった。生検術後1か月、直視下に滑膜切除術を施行した。術後27ヵ月、疼痛はほぼ消失し単純Xpで骨変化の進行を認めない。

【考察】両症例共、距腿関節を中心とした著明な滑膜増生を認めており当科初診時、距腿、距骨下関節の骨変化を認めた。血液生化学所見にて特異的な所見は認めないものの滑膜の病理所見はRAに矛盾しない像を認めた。足関節に局限した持続性関節炎に対しては滑膜生検を診断の補助として積極的な治療介入が必要であると考えられる。

2P-62

ポリオ後遺症による踵足変形に対し
踵骨延長術にて加療した1例

○亀田 壮^{1,2)}、田中 康仁¹⁾、熊井 司¹⁾、谷口 晃¹⁾、
松田 剛典¹⁾、富和 清訓¹⁾、金子 和夫²⁾

1)奈良県立医科大学 整形外科、2)順天堂大学 整形外科

【はじめに】ポリオはワクチンの普及により発生は激減し最近では新鮮例はほぼ見られないが、過去のポリオによって機能障害を残す症例は多い。今回ポリオ後遺症に対し手術的加療を行い疼痛が残存している踵足変形に対して、踵骨延長術を施行した1例について報告する。

【症例】73歳女性。幼少期にポリオを発症し20年前に他院で右足関節三関節固定術、踵骨骨切り術を施行された。今回右踵部の疼痛が強く歩行困難を生じたため当科を受診した。初診時、踵部外側に腓胝を認め圧痛が著明であった。徒手筋力テストでは腓腹筋で3と低下していた。単純X線では著明な踵足を認め、踵接地部は脛骨軸上に存在した。踵足変形が著明に残存しており、荷重部に腓胝が形成されていることから、荷重アライメントを改善させつつ、変形を矯正させる必要があると考えた。手術所見では、踵部外側から進入し、足底腱膜を踵骨停止部で切離しL字状に踵骨を骨切りし短腓骨筋腱は停止部で切離して、アキレス腱停止部に誘導してアキレス腱と縫合した。踵足を改善させる為に、足底に平行に延長できるよう OrthofixM100 創外固定器を装着した。術後1週から疼痛に合わせて0.5～0.75 mm/日で骨延長開始、術後2週から部分荷重開始とした。単純X線で20mm程度延長できていることを確認し延長は終了した。その後骨癒合を得たことを確認し術後5ヶ月半で創外固定を抜去した。単純X線では接地部は脛骨軸より後方に存在し荷重アライメントは改善していると判断した。術後2年経過し疼痛は軽減し歩行距離も改善している。

【考察】今回の術式は踵骨を後方に延長することで下腿三頭筋に対するレバーアームを大きくし底屈力の回復を計るとともに、足部にかかる荷重を分散できると考えられた。

2P-63

筋緊張性ジストロフィー患者に生じた
両側下腿過外捻症の一例

○荒木 勸¹⁾、久保 充彦¹⁾、板倉 慎²⁾、
富士居 和之²⁾、松末 吉隆¹⁾

1)滋賀医大 整形外科、2)草津総合病院

【緒言】下腿の回旋変形は足のアライメントに影響を及ぼし、歩行障害や歩容異常をもたらす。また成人期に症状を出現する下腿過外捻症は比較的まれである。後天性の原因として脳性麻痺などの神経筋疾患の報告が散見される。今回我々は、筋緊張性ジストロフィー患者に生じた両側下腿過外捻症に対し低位脛骨減捻骨切り術を施行したので報告する。

【症例】42歳男性、主訴は両側下腿過外捻を伴う歩行障害である。小児期より両側下腿過外捻は自覚していたが、近年歩行異常を周囲から指摘されるようになり来院した。中学生の頃より手指の運動障害を自覚し、初診時に把握性ミオトニアが明らかであり、家族歴として母、母方の伯父、その伯父の長男、長女に筋緊張性ジストロフィーがあったため、筋緊張性ジストロフィーに合併した両側下腿過外捻症と診断した。診察所見では thigh-foot angle は右38度、左31度、CTによる計測では tibial torsion angle は右47度、左45度であった。初回は右側、1年後に左側の低位脛骨減捻骨切り術を施行した。腓骨は骨切りのみで固定はせず、脛骨はロッキングプレートで固定した。術後 thigh-foot angle は右11度、左10度、CTによる計測では tibial torsion angle は右30度、左30度となった。患者は外観上の外捻および歩行障害も改善し満足している。

【結語】まれな筋緊張性ジストロフィー患者に生じた両側下腿過外捻症を経験した。低位脛骨減捻骨切り術を両側ともに施行し満足な結果が得られた。

2P-64

ジストニアによる足部変形の矯正手術

○酒井 典子¹⁾、橋爪 長三¹⁾、天正 恵治²⁾

1) 新生病院 整形外科、2) 信州大学 整形外科

【目的】ジストニアによる麻痺足に伴う足部変形に対し手術を行った2例を経験したので報告する。

【症例】

症例1：23歳男性、10歳で発症。特発性全身性ジストニアと診断される。16歳で歩行障害が出現し、徐々に進行し、平成15年当科初診となった。両側高度尖足位、足趾屈曲拘縮を認め、足関節底屈80°で他動的にはほとんど動かなかった。ADLは起立、歩行不能で車椅子を使用していた。MMTは下腿三頭筋、後脛骨筋、長母指屈筋は3～4、その他の下腿以下の筋群は0だった。平成15年3月右足、6月に左足の手術を行った。術式はアキレス腱、長母趾屈筋腱延長術、後脛骨筋腱、長趾屈筋腱移行術、第2、3、4足趾屈筋腱、足底筋腱、母趾外転筋切離術を施行した。

症例2：17歳女性、9歳で発症。左上下肢の運動障害が出現し、徐々に進行し、平成19年当科紹介となった。初診時、左片麻痺を呈し、左上肢の不全麻痺、左足部は内反尖足を認め、足関節背屈-30°、底屈55°、内反30°、内転30°だった。足趾は屈曲拘縮を認めた。平成19年10月、3関節固定術、アキレス腱延長術、後脛骨筋腱、長趾屈筋腱移行術、第1中足骨骨切術を施行、平成20年10月、長母趾屈筋腱延長術、長趾伸筋腱固定術、MTP関節解離術を行った。

【結果】最終調査時、2例とも足底接地が可能となり、歩行能力、日常生活動作は著しく改善している。

【考察】ジストニアに対する治療は薬物治療やボツリヌス療法などが主体である。末期には下肢の拘縮、特に内反尖足変形呈することが多く、保存的加療ではその効果が十分得られない。ADLが著しく低下し、薬物治療での効果が不十分な足部変形には手術治療も十分効果が期待できると考えられた。また、最終目的は足底接地可能な足に矯正することであるため、軟部組織による矯正のみで不十分な場合には骨性矯正を行い、筋バランスを得るための機能再建を行う必要がある。

平成9年7月24日
学術刊行物許可

日本足の外科学会雑誌 第34巻 第2号

2013年10月1日発行

発行：日本足の外科学会
〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1
弘済会館ビル 株式会社コングレ内
TEL：03-5216-5797 FAX：03-5216-5552

編集者：第38回日本足の外科学会・学術集会
会長：羽鳥 正仁
〒980-0803 仙台市青葉区国分町2-3-11
東北公済病院 整形外科内
TEL：022-227-2211(代表) FAX：022-263-8069
